

書評

S・ブレント・ブロウツマン 編著, 木村彰男 監訳

リハビリテーション・プロトコール 整形外科疾患へのアプローチ

富士川恭輔 (防衛医科大学校整形外科教室教授)

近年の整形外科領域の飛躍的發展はリハビリテーション医学の進歩によるところが大きいにもかかわらず、整形外科医のリハビリテーション離れが目立つようになってきた。われわれの若い時には、自分がリハビリテーション科に依頼した患者がどのような療法を受けているのか現場を訪れ、自分の眼でみて、その場でリハビリテーション科の医師や療法士と具体的に治療法を検討する機会が多かった。しかし今日では大部分の整形外科医が、十分な情報も提供せずに、たった1枚の依頼表で患者をリハビリテーション科に送り、自分の患者がどのような訓練を受けているのか知らないこともありがちである。

当然依頼する整形外科医はリハビリテーションのプロトコールに対する十分な知識を備えているべきであるが、多くの現場では直接依頼するのは研修医、専修医が多いので必ずしもそうとは限らない。術後カンファレンスなどで研修医、専修医にリハビリテーションプロトコールを質すと、十分な答が返ってこないことが少なくない。

一方、依頼を受けた側も、整形外科の疾患、特に術後患者に対する標準的リハビリテーションプロトコールを理解していないと手をつけることができない。これらのことが重なるとリハビリテーションは進まないばかりか医療事故が発生することもありうる。

この度、医学書院 MYW より発刊された慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室助教授木村彰男先生ご監訳「リハビリテーション・プロトコ

ル (原著 Handbook of Orthopaedic Rehabilitation, SB Brotzman 編著)」は、まさに日常多忙なこれらの医療従事者の臨床の現場においてきわめて有用な書である。

本書は日常遭遇することの多い整形外科の疾患を部位別に分類し、まずリハビリテーションの原理、病態などを解説した後、主に各疾患の術後リハビリテーションプロトコールをチャートを中心に、具体的にコンパクトにまとめてあり、同一手術でも患者の状態によりいくつかのコースが記載されているなど実用に即している。さらに必要に応じて図が豊富に挿入されているのできわめて理解しやすい。常に携帯できるハンディな体裁にもかかわらず大きな成書にも匹敵する内容となっている。

本書の翻訳は慶應義塾大学医学部リハビリテーション科、慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターのスタッフが担当しているが、全体を通じて文章が統一されているので読みやすく、分担翻訳の欠点である文章の不整合性が全く感じられないのは特筆すべきである。

本書のプロトコールは原著者の序文にある通り、もちろんすべての患者にそのまま使用できるとは限らない。しかし、これらの例ではこのプロトコールを枠組みとして各症例に応じたプログラムを作ることとは、われわれにとってきわめてよい勉強の機会ともなる。待望の書である、といっても過言ではない。(A5変型 頁408 本体6,000円+税 1998 医学書院 MYW 刊)